

(創立メンバー：理事) 50 音順

有菌泰弘：

義肢装具士として足との関わりが深く、靴の勉強のためにドイツに留学した経験を持つ。熊本県八代市が拠点であるが、福岡市内では長尾病院、那珂川病院、福岡大学病院で積極的にフットウェア・義肢装具の製作に携わっている。会社の直営の靴屋「シュプール」を熊本市内に持つ。竹内とともに長尾病院フットウェア外来を立ち上げ軌道に乗せた。現在、熊本 有菌義肢株式会社（ウェルフィット）専務取締役。義肢装具士。

倉富英史：

日本一のコンフォートシューズ専門店を目指して直方から福岡で開業。シューフィッターの奥様と一緒に接客に当たっており、九州一の豊富なコンフォートシューズの在庫を持つ。どんどん新しいものを取り入れ、福岡から全国へ情報発信を行いたいと考えている。現在、大濠公園近くのシューズクラトミ代表、ドイツ整形靴研究会（GOSR）メンバーであり、靴業界の人脈も多い。新博多駅ビル阪急百貨店にも「楽歩堂」出店。現在は多くのスタッフを抱え、スタッフ教育にも熱を入れている。また、フットワークも軽く、世界中に靴道中に出かけることも多い。

竹内一馬：

元は内科医であるが、現在は血管外科医として、福岡大学病院では主に末梢血管手術を専門としていた。福岡市内の長尾病院では、循環器診療に加え、フットケア・フットウェア外来を行っており、巻き爪や爪白癬下肢切断術後の治療など幅広く高齢者の足診療を行っている。現在の夢はクリニックに併設して靴・介護用品店・ウォーキング指導・高齢者音楽療法を行えるスペースを作ること。福岡・九州にフットケアを普及させたいとの思いがあり、足ネットワークプロジェクトを立ち上げた。フットワーク軽く循環器・足病診療を行うために民間病院に異動。現在は、社会医療法人喜悦会 那珂川

病院 血管外科 部長。循環器専門医・脈管専門医。

竹之下博正：

糖尿病足診療のメッカである京都医療センターで勤務をしていた経験を持ち、フットウェアの知識も豊富。内科医であるが外科的な処置も行え、足壊疽をみると胸騒ぎが収まらないほどの足オタク。子供と足の骨格標本で遊ぶこともある。将来の夢は靴屋になること。糖尿病認定看護師と共に糖尿病フットケア外来を行っている。現在は、福岡大学病院 内分泌糖尿病科 助教。福岡大学病院 糖尿病フットケア外来責任者。総合内科専門医。

吉田 恵：

エンドユーザー（義足使用者）であり、事故により片足切断になった過去を持つ。ファッション性も含めた女性の視点での靴販売・フィッティングに力を注ぐ。女性起業家としての講演も多くこなし、メディアに取り上げられることも多い。足に困った方へのパイプラインになりたいとの想いも強く、ゆくゆくは、オリジナルで靴の制作もしたいと夢を持つ。現在は、鳥飼にある婦人靴専門店「PASSO&（パッサンド）」代表。中身はともかく、見た目もエレガントなステキな女性、NPO 法人足もと健康サポートねっとの看板娘である。

柳瀬敏彦：

昭和 55 年九州大学医学部卒。平成 21 年 4 月より福岡大学内分泌糖尿病科 教授。内分泌と糖尿病、抗加齢の専門医。全身が診れる内分泌科医及び糖尿病医の育成や生活習慣病の病因、病態の解明・創薬、再生医療等の先端医療の基盤研究等に力をそそいでいる。糖尿病患者のフットケア関連研究会や市民公開講座等の代表世話人を務める。

安西慶三：現在作成依頼中